

# 扇・西新井地区部会

「西新井大師を中心としたその界隈の賑わい」

(推進委員)

乾 雅 榮  
北澤 敏博  
多賀 正行  
原口 秀子

梶 公 一  
黒川 秀昭  
田中 実

(カウンセラー)

牛込 哲也  
大熊 喜昌  
佐藤 英夫  
中島 勝正



## 【1】. テーマの検討

近年、都営交通の日暮里・舎人ライナーが開通して沿線地区は、まちの様子が変わりつつあり、発展途上にあると言ってもよい地域である。

この地区のまちづくりを考えるに当たり、この地区にしかない地域資源は何かと検討した結果、西新井大師ということで一致した。

当地区のまちづくりを考えるテーマを「西新井大師を中心としたその界隈の賑わい」とした。

### (1) 観光資源としての西新井大師を活かすために何をするのか

- ①西新井大師へ人の勧誘
- ②西新井大師周辺的环境整備
- ③西新井大師への歴史的古道跡を物語りにして街を繋ぐ

### (2) 西新井大師をより多く知るため次の行動をした

- ①江戸時代より西新井大師参詣のために大師に向かういわゆる大師道と呼ばれるルートが多くあった。その中から本郷から繋がるルートを選び歩いてみた。現在の北区田端新道から江北・扇を経て、西新井大師まで約10km、3時間30分かかった。

その道は、その当時の場所とほぼ同じ所に有り、沿道には道標や石碑、祠が残されていた。



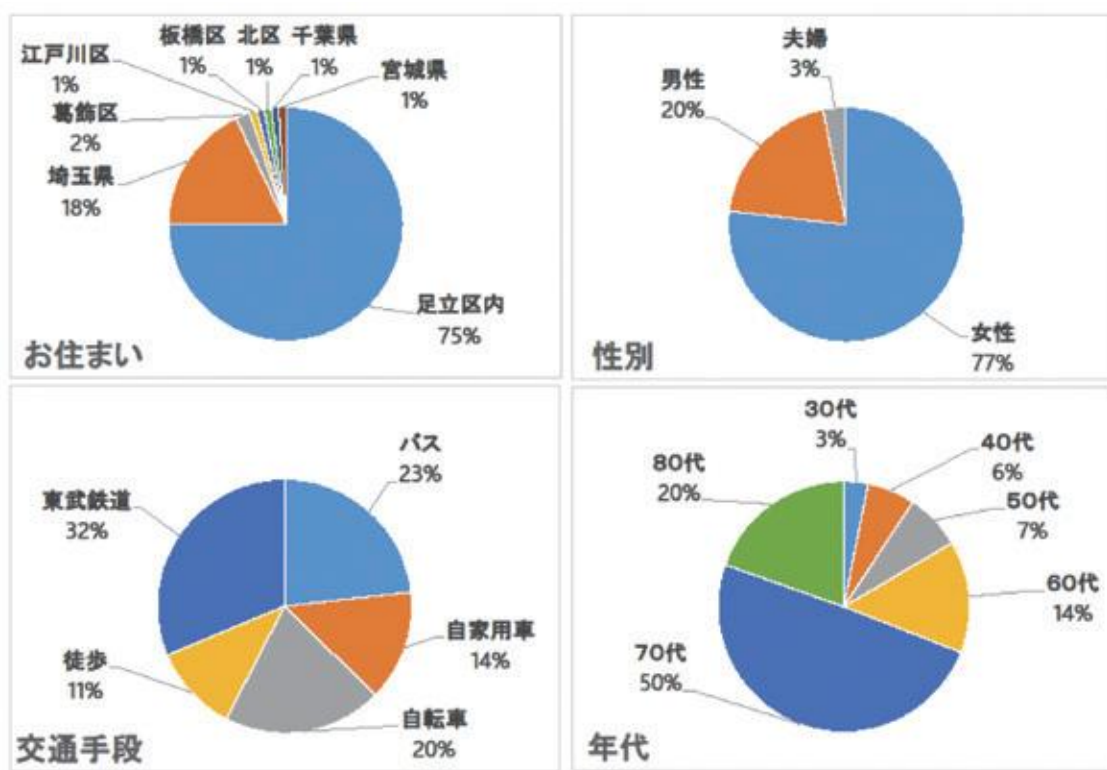
歩き始めの起点である橋元酒屋前  
(田端新町、道標西新井大師道)



江北駅前胡禄神社内(道標弘法大師道)

②西新井大師への参詣者は何処からどのようにして来ているのか年齢層と共に8月の縁日でアンケート調査を行った。

アンケート結果は、男女共70代以上が65%で、その性別は男性20%女性77%で、全体の75%が足立区内からの来訪という特徴が見られた。(正月三が日や牡丹の花咲く時など特別行事の時期では無い)



## 【II】. 西新井大師を観光資源として活かすことを検討した

### (1) アンケート調査から見た課題

- ①参詣者の年齢と居住地に偏りがある。
- ②幅広い年齢層、特に若年層に来て欲しい。
- ③足立区以外の都内・近県から交通機関を乗り継いででも来て欲しい。

### (2) 西新井大師とその界隈の期待する情景

- ①いつも若さと活気を感じられる大師様でありたい。
- ②縁日以外の日も行きたくなる場所であって欲しい。
- ③いつも商店街に活気と潤いをもたらせたい。
- ④NO.1 といえるものが欲しい。

## 【III】. 新たに進出してきた企業経営（ホステル運営）に学ぶ

(1) 西新井駅近くに海外バックパッカー観光客を対象にしたホステルが2015年12月にオープンしました。その特徴と売りは・・・

- ①宿泊費用が低料金である。
- ②外国人向けおもてなしとして西新井大師への参拝、書道、着物の着付け、握り寿司等のカルチャー体験イベントを行っている。
- ③観光地浅草まで20分と近く、下町であることが外国人に人気でその利用が大半である。

## (2) 当部会からホステルへの働きかけによる国際交流活動

当部会では、このホステルの運営活動のなかで外国人旅行者に対し茶道や着物着付けなどの文化体験を誘っている事に注目し、以下二回のイベント提案をして実践しました。

### ① 餅つきの体験提案

外国人宿泊客を、足立区の施設「関原の森」で年の暮れに行われる餅つきを体験してもらいました。



外国人の餅つき体験にホステルスタッフも同行



愛恵まちづくり記念館を背景にお餅を食べる

### ② 盆踊りBBQパーティで宿泊客と交流

当地区まちづくりメンバーで、ホステル2階のBBQ広場を利用したの暑気払いの計画を立てていたところ、外国人宿泊客との交流場면을TV取材したいとの申し入れがあり協力する事にしました。

また、そういうことならと近隣の関原東町会の踊りの方々も急遽、参加してくれることになりました。当日は、ホステルの交流の日に入入りしている常連の地域のご家族も参加して、盆踊りBBQパーティとなり賑わい国際交流の場となりました。



ホステル2階広場での盆踊り BBQ パーティー



宿泊客、ホステル運営者、盆踊り有志及び当部会メンバーによる記念写真  
(この準備のために、ホステル宿泊中の外国人も材料の買い出しに参加して頂き、  
東京下町商店街の雰囲気を楽しんでもらいました。)

当部会の暑気払いが、外国人観光客と地域、そしてテレビ局まで巻き込んだイベントとなり、参加者全員の記憶に残ったと感じます。

## 【IV】. 提案：観光資源としての西新井大師を活かすために

(1) 現在の西新井大師のことをもっと知る為、僧侶に境内をご案内頂きました。(気に留まった事)

①お砂踏み結願のお参りができる



一周すると四国八十八か所を巡ったと同じご利益がある

②山門を改修し5メートル程セットバックした。



敷石にある黒い印は従来有った山門の位置を示す

③本堂を免震構造とした。



これが免震装置

④地元出身の元大関栃東（玉ノ井部屋）が優勝したときに国技館で飾られた優勝額が、今は御大師様の不動堂にあること。



⑤写経を体験できること。



(2) 西新井大師とその界隈に外国人を含む多くの人に訪れてもらう為に考える事、行動すべき事、或いは既に実施されている新たな活動など

①尾竹橋通り大師道アーチについて

尾竹橋通りアリオ付近に、西新井大師への導（しるべ）として、周辺の商店会が中心となって2008年（平成20年）に、まちづくりトラストと有志の寄付で設置されました。

お正月の人通りがかなり増えたと好評です。



②地元住民と来訪客とが交流できる場所やイベントを知ってもらう。

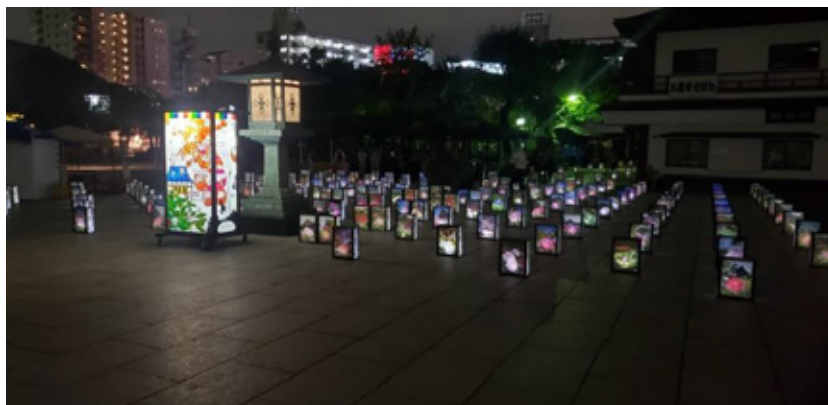
アリオ西新井・西新井大師・西新井大師商栄会タイアップ企画について今年から、西新井アリオにて花まつり、万燈神輿・風鈴祭り・謎解きイベント等のPRを行っております。これも、「大師道アーチ」と同じく、アリオのお客様を大師に誘導することに一役を担っています。



アリオのだるま (大師の案内)  
このだるまは、西新井大師に奉納される予定



藤や牡丹の花咲く頃



行燈まつり



夏の風鈴祭り

### ③万燈神輿巡行について

西新井大師商栄会では、4月の「花まつり」の時期に「万燈神輿巡行」を行いますが、この時にホステルの外国人観光客を招いて神輿体験をおこなっています。商店会の「花半纏」を借用し、西新井大師様よりご寄附の草履を着用。

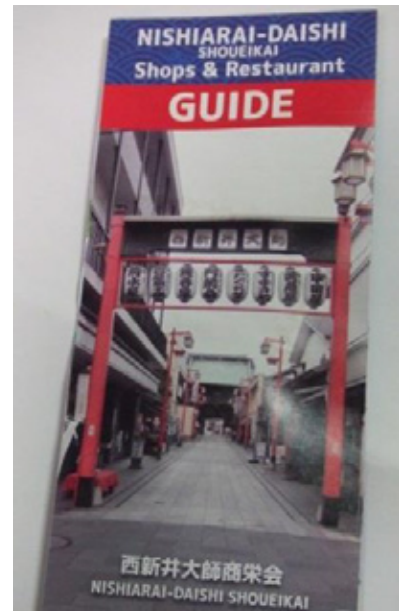
このお神輿体験がきっかけで商店会の女性がホステルのゲストと知り合い、結婚して現在、メキシコで暮らしているという。



境内でお祭り神輿を担ぐ

④地元商店街で子供や外国人への体験型のイベントを増やす。現在もミニだるま作りやベーゴマ体験等のイベントが、予定または開催されている。

⑤来訪客(特に外国人) に向けた交通やトイレなど、インフラに関する整備及び案内を判りやすくする。



地元商店街(商栄会)の作成した外国人向けガイド

# 扇・西新井地区部会研究発表について

## 西新井大師を中心としたまちの賑わい

ご発表どうもありがとうございました。西新井大師の魅力が伝わってきました。私は、文教大学で福祉を専門にしております。文教大学は、2021年に国際学部、そして経営学部が花畑の「東京あだちキャンパス」に移設いたします。国際学部には、国際観光学科もございますので、是非こういった活動は、地域連携を一緒にしていきたいなと思いました。

本日のご発表について、異なるものとの組み合わせが、いい意味での相乗効果を生み出していると思いました。1つは、西新井大師という伝統的な施設と、新しいエンブレムホステルとのコラボレーション。私も両方、訪れたことがあります。その時、こちらの取り組みを知り、とてもいい取り組みだと思いました。

2つめは、ローカルとグローバルの組み合わせ。地元、それぞれ下町のあたたかささまざまな国から訪れた方々。その組み合わせが、お互いにより効果を生み出しているということ。

3つめは、観光というと観るだけの、受け身の体制になりますが、体験するという、観光客の方が主体的に参加する活動を取り入れていらっしゃるというところ。観るだけではなく、参加、主体的に行動するという両者の組み合わせがあって、とても楽しいものになっていると思いました。

国際社会福祉の分野からひとつだけ、今後、こういうことをしてほしいということをお話します。先ほど、区長のお話にもありましたが、今後、足立区は外国人の方、観光客だけではなくて生活者の方も増えてくると思います。そうした方々を巻き込んで、この西新井大師をどうつくっていくのか、ということをご検討いただくと良いのかなと思いました。

また、観光資源と外国人の接点ですが、観光資源だけでなく、足立区には、いろいろな社会資源もあるので、地域の社会資源との接点による国際交流を図っていくことも今後ご検討いただければ、さらに良いのかなと思いました。



**森 恭子**

文教大学  
人間科学部人間科学科教授